



## CLI セットアップ プログラムによるスイッチの設定

---

ここでは、スタンドアロン スイッチをコマンドライン インターフェイス (CLI) で設定する手順について説明します。Express Setup を使用してスイッチを設定する方法については、『*Catalyst 3560-C and 2960-C Switch Getting Started Guide*』を参照してください。スイッチを電源に接続する前に、[第 2 章「スイッチの設置」](#)を参照して安全に関する注意事項を確認してください。

### コンソール ポート経由での CLI のアクセス

Cisco IOS コマンドおよびパラメータは CLI によって入力できます。次のオプションノイズ化を使用して CLI にアクセスします。

- [RJ-45 コンソール ポート](#)
- [USB ミニタイプ B コンソール ポート](#)

### RJ-45 コンソール ポート

---

- ステップ 1** RJ-45/DB-9 アダプタ ケーブルを PC の 9 ピン シリアル ポートに接続します。ケーブルのもう一方の端をスイッチのコンソール ポートに接続します。
- ステップ 2** PC または端末上で端末エミュレーション ソフトウェアを起動します。このプログラム (その多くは、HyperTerminal や ProcommPlus などの PC アプリケーション) は、使用可能な PC または端末とスイッチの間の通信を確立します。

図 C-1 コンソール ケーブルの接続



<b>1</b>	RJ-45 コンソール ポート	<b>2</b>	コンソール ケーブル (RJ-45/DB-9 アダプタ ケーブル)
----------	-----------------	----------	-----------------------------------

**ステップ 3** PC または端末のボー レートおよびキャラクタ フォーマットを、次に示すコンソール ポートの特性に合わせて設定します。

- 9600 ボー
- 8 データ ビット
- 1 ストップ ビット
- パリティなし
- なし (フロー制御)

**ステップ 4** 第 2 章「スイッチの設置」に記載されているようにスイッチに電源を接続します。

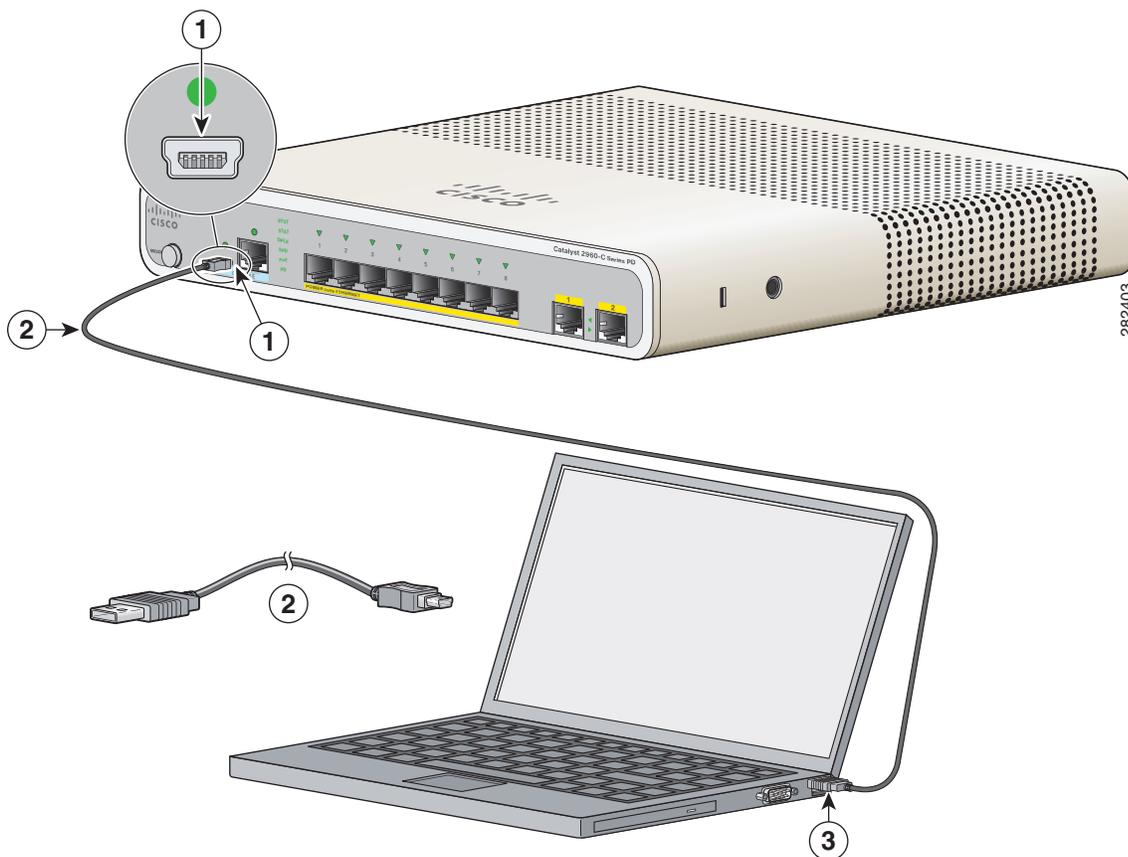
**ステップ 5** PC または端末にブートローダ シーケンスが表示されます。Enter を押してセットアップ プロンプトを表示します。「セットアッププログラムの完了」(PC-7) の手順を実行します。

## USB ミニタイプ B コンソール ポート

**ステップ 1** スイッチの USB-mini コンソール ポートを Windows ベースの PC に最初に接続するときは、USB ドライバをインストールします。図 C-2 を参照してください。

- 「Cisco Microsoft Windows XP USB ドライバのインストール」 (P.C-4)
- 「Cisco Microsoft Windows 2000 USB ドライバのインストール」 (P.C-5)
- 「Cisco Microsoft Windows Vista および Windows 7 USB ドライバのインストール」 (P.C-5)

図 C-2 USB-mini コンソール ケーブルの接続



1	USB-mini コンソールポート	3	PC の USB ポート
2	USB ケーブル		

**ステップ 2** USB ケーブルを PC の USB ポートに接続します。ケーブルのもう一端をスイッチのミニ B (5 ピンコネクタ) USB-mini コンソール ポートに接続します。図 C-2 を参照してください。

**ステップ 3** USB-mini コンソール ポートに割り当てられた COM ポートを識別するには、次の手順を実行します。[Start] > [Control Panel] > [Systems] を選択します。[Hardware] タブをクリックして、[Device Manager] を選択します。[Ports] セクションを展開します。割り当てられた COM ポートが、[Cisco USB System Management Console] というエントリの行末の括弧内に表示されます。

## ■ コンソールポート経由での CLI のアクセス

- ステップ 4** PC または端末上で端末エミュレーションソフトウェアを起動します。プログラム（通常、HyperTerminal または Procomm Plus などの PC アプリケーション）によって、スイッチと PC または端末との通信が可能になります。
- ステップ 5** COM ポートを設定します。
- ステップ 6** PC または端末のボーレートおよびキャラクタフォーマットを、次に示すコンソールポートの特性に合わせて設定します。
- 9600 ボー
  - 8 データビット
  - 1 ストップビット
  - パリティなし
  - なし（フロー制御）
- ステップ 7** 第 2 章「スイッチの設置」に記載されているようにスイッチに電源を接続します。
- ステップ 8** PC または端末にブートローダシーケンスが表示されます。Enter を押してセットアッププロンプトを表示します。「セットアッププログラムの完了」(P.C-7) の手順を実行します。

## Cisco Microsoft Windows USB デバイス ドライバのインストール

### Cisco Microsoft Windows XP USB ドライバのインストール

- ステップ 1** Cisco.com からファイル Cisco\_usbconsole\_driver.zip を入手し、解凍します。



(注) ドライバファイルは、Cisco.com のソフトウェアダウンロードサイトからダウンロードできます。

- ステップ 2** 32 ビット Windows XP を使用している場合は、Windows\_32 フォルダ内の setup.exe ファイルをダブルクリックします。64 ビット Windows XP を使用している場合は、Windows\_64 フォルダ内の setup(x64).exe ファイルをダブルクリックします。
- ステップ 3** Cisco Virtual Com InstallShield Wizard が起動します。
- ステップ 4** [Ready to Install the Program] ウィンドウが表示されます。[Install] をクリックします。
- ステップ 5** [InstallShield Wizard Completed] ウィンドウが表示されます。[Finish] をクリックします。
- ステップ 6** USB ケーブルを、PC とスイッチのコンソールポートに接続します。USB-mini コンソールポートの LED がグリーンになり、Found New Hardware Wizard が表示されます。指示に従って、ドライバのインストールを完了します。

## Cisco Microsoft Windows 2000 USB ドライバのインストール

**ステップ 1** Cisco.com からファイル Cisco\_usbconsole\_driver.zip を入手し、解凍します。



(注) ドライバ ファイルは、Cisco.com のソフトウェア ダウンロード サイトからダウンロードできます。

**ステップ 2** setup.exe ファイルをダブルクリックします。

**ステップ 3** Cisco Virtual Com InstallShield Wizard が起動します。[Next] をクリックします。

**ステップ 4** [Ready to Install the Program] ウィンドウが表示されます。[Install] をクリックします。

**ステップ 5** [InstallShield Wizard Completed] ウィンドウが表示されます。[Finish] をクリックします。

**ステップ 6** USB ケーブルを、PC とスイッチのコンソール ポートに接続します。USB-mini コンソール ポートの LED がグリーンになり、Found New Hardware Wizard が表示されます。指示に従って、ドライバのインストールを完了します。

## Cisco Microsoft Windows Vista および Windows 7 USB ドライバのインストール

**ステップ 1** Cisco.com からファイル Cisco\_usbconsole\_driver.zip を入手し、解凍します。



(注) ドライバ ファイルは、Cisco.com のソフトウェア ダウンロード サイトからダウンロードできます。

**ステップ 2** 32 ビット Windows Vista または Windows 7 を使用している場合は、Windows\_32 フォルダの setup.exe ファイルをダブルクリックします。64 ビット版の Windows Vista または Windows 7 を使用している場合は、Windows\_64 フォルダの setup(x64).exe ファイルをダブルクリックします。

**ステップ 3** Cisco Virtual Com InstallShield Wizard が起動します。[Next] をクリックします。

**ステップ 4** [Ready to Install the Program] ウィンドウが表示されます。[Install] をクリックします。



(注) ユーザ アカウント制御の警告が表示されたら、[Allow - I trust this program] をクリックします。

**ステップ 5** [InstallShield Wizard Completed] ウィンドウが表示されます。[Finish] をクリックします。

**ステップ 6** USB ケーブルを、PC とスイッチのコンソール ポートに接続します。USB-mini コンソール ポートの LED がグリーンになり、Found New Hardware Wizard が表示されます。指示に従って、ドライバのインストールを完了します。

## Cisco Microsoft Windows USB ドライバのアンインストール

### Cisco Microsoft Windows XP および 2000 USB ドライバのアンインストール

ドライバをアンインストールするには、Windows の [Add or Remove Programs] ユーティリティまたは setup.exe ファイルを使用します。

#### Add or Remove Programs ユーティリティの使用



(注) ドライバをアンインストールする前に、スイッチとコンソール端末を切り離します。

- ステップ 1 [Start] > [Control Panel] > [Add or Remove Programs] を選択します。
- ステップ 2 [Cisco Virtual Com] までスクロールして [Remove] をクリックします。
- ステップ 3 [Program Maintenance] ウィンドウが表示されます。[Remove] オプション ボタンを選択します。[Next] をクリックします。

#### Setup.exe プログラムの使用



(注) ドライバをアンインストールする前に、スイッチとコンソール端末を切り離します。

- ステップ 1 32 ビット Windows の場合は setup.exe、64 ビット Windows の場合は setup(x64).exe を実行します。[Next] をクリックします。
- ステップ 2 Cisco Virtual Com の InstallShield Wizard が表示されます。[Next] をクリックします。
- ステップ 3 [Program Maintenance] ウィンドウが表示されたら、[Select] オプション ボタンをクリックします。[Next] をクリックします。
- ステップ 4 [Remove the Program] ウィンドウが表示されたら、[Remove] を選択します。
- ステップ 5 [InstallShield Wizard Completed] ウィンドウが表示されます。[Finish] をクリックします。

### Cisco Microsoft Windows Vista および Windows 7 USB ドライバのアンインストール



(注) ドライバをアンインストールする前に、スイッチとコンソール端末を切り離します。

- ステップ 1 32 ビット Windows の場合は setup.exe、64 ビット Windows の場合は setup(x64).exe を実行します。[Next] をクリックします。
- ステップ 2 Cisco Virtual Com の InstallShield Wizard が表示されます。[Next] をクリックします。
- ステップ 3 [Program Maintenance] ウィンドウが表示されます。[Remove] オプション ボタンを選択します。[Next] をクリックします。

**ステップ 4** [Remove the Program] ウィンドウが表示されたら、[Remove] をクリックします。



**(注)** User Account Control 警告が表示された場合は、[Allow - I trust this program] をクリックして先に進みます。

**ステップ 5** [InstallShield Wizard Completed] ウィンドウが表示されます。[Finish] をクリックします。

## 初期設定情報の入力

スイッチを設定するには、セットアッププログラムを完了する必要があります。セットアッププログラムは、スイッチの電源がオンになると自動的に実行されます。スイッチがローカル ルータやインターネットと通信するのに必要な IP アドレスやその他の設定情報を割り当てる必要があります。

## IP 設定

次の情報が必要です。

- スwitchの IP アドレス
- サブネット マスク (IP ネットマスク)
- デフォルト ゲートウェイ (ルータ)
- イネーブル シークレット パスワード
- イネーブル パスワード
- Telnet パスワード

## セットアップ プログラムの完了

セットアッププログラムを完了し、スイッチの初期設定を作成する手順は次のとおりです。

**ステップ 1** 最初の 2 つのプロンプトで **Yes** を入力します。

```
Would you like to enter the initial configuration dialog? [yes/no]: yes
```

```
At any point you may enter a question mark '?' for help.  
Use ctrl-c to abort configuration dialog at any prompt.  
Default settings are in square brackets '[]'.
```

```
Basic management setup configures only enough connectivity  
for management of the system, extended setup will ask you  
to configure each interface on the system.
```

```
Would you like to enter basic management setup? [yes/no]: yes
```

**ステップ 2** スwitchのホスト名を入力し、**Return** を押します。

ホスト名は、コマンド スwitchでは 28 文字以内、メンバー スwitchでは 31 文字以内に制限されています。どのスswitchでも、ホスト名の最終文字として **-n** (**n** は数字) を使用しないでください。

```
Enter host name [Switch]: host_name
```

**ステップ 3** イネーブル シークレット パスワードを入力し、**Return** を押します。

このパスワードは 1 ～ 25 文字の英数字で指定できます。先頭の文字を数字にしてもかまいません。大文字と小文字が区別されます。スペースも使えますが、先頭のスペースは無視されます。シークレットパスワードは暗号化され、イネーブルパスワードはプレーンテキストです。

```
Enter enable secret: secret_password
```

**ステップ 4** イネーブル パスワードを入力し、**Return** を押します。

```
Enter enable password: enable_password
```

**ステップ 5** 仮想端末 (Telnet) パスワードを入力し、**Return** を押します。

このパスワードは 1 ～ 25 文字の英数字で指定できます。大文字と小文字が区別されます。スペースも使えますが、先頭のスペースは無視されます。

```
Enter virtual terminal password: terminal-password
```

**ステップ 6** (任意) プロンプトに従って、簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP) を設定します。CLI を使用して、あとで SNMP を設定することもできます。あとで SNMP を設定する場合は、**no** と入力します。

```
Configure SNMP Network Management? [no]: no
```

**ステップ 7** 管理ネットワークに接続するインターフェイスのインターフェイス名 (物理的なインターフェイスまたは VLAN (仮想 LAN) の名前) を入力して、**Return** を押します。このリリースでは、インターフェイス名には必ず **vlan1** を使用してください。

```
Enter interface name used to connect to the
management network from the above interface summary: vlan1
```

**ステップ 8** インターフェイスを設定するために、スイッチの IP アドレスとサブネット マスクを入力し、**Return** を押します。下に示す IP アドレスとサブネット マスクは一例です。

```
Configuring interface vlan1:
Configure IP on this interface? [yes]: yes
IP address for this interface: 10.4.120.106
Subnet mask for this interface [255.0.0.0]: 255.0.0.0
```

**ステップ 9** **Y** を入力して、スイッチをクラスタ コマンド スイッチとして設定します。N を入力すると、メンバー スイッチまたはスタンドアロン スイッチとして設定されます。

**N** を入力した場合は、CLI を使用してスイッチをコマンド スイッチとしてあとで設定できます。後で設定する場合は、**no** と入力します。

```
Would you like to enable as a cluster command switch? [yes/no]: no
```

スイッチの初期設定が完了しました。スイッチにその設定が表示されます。設定出力例を次に示します。

```
The following configuration command script was created:
hostname switch1
enable secret 5 $1$U1q8$D1A/OiaEbl90WcBPd9cOn1
enable password enable_password
line vty 0 15
password terminal-password
no snmp-server
!
no ip routing

!
interface Vlan1
no shutdown
ip address 10.4.120.106 255.0.0.0
```

```
!  
interface FastEthernet1/0/1  
!  
interface FastEthernet1/0/2  
  
interface FastEthernet1/0/3  
!  
...<output abbreviated>  
end
```

**ステップ 10** 次の選択肢が表示されます。

[0] Go to the IOS command prompt without saving this config.

[1] Return back to the setup without saving this config.

[2] Save this configuration to nvram and exit.

設定を保存して、次回のスイッチ再起動時に使用する場合は、選択肢 2 を選択して NVRAM に保存します。

Enter your selection [2]:2

いずれかを選択して **Return** を押します。

---

セットアッププログラムが完了すると、スイッチは作成されたデフォルト設定を実行できます。この設定を変更したり、他の管理タスクを実行したりするには、Switch> prompt でコマンドを入力します。

